

高松市生涯学習センター 生涯学習カレッジ（個人生活に役立つ講座）

「四国遍路の歴史」を開催しました

平成25年9月3日と10日の2日間、円明院ご住職の武田和昭さんを講師にお迎えし、「四国遍路の歴史」を開催しました。

第1回目は、平安時代初期から江戸時代初期のお話をいただきました。弘法大師（空海）の修行のことが『三教指帰』に著されており、その四国での辺地修行が現在の四国遍路の原型になったと考えられています。室町時代後期頃に「四国辺路」という言葉が使われるようになり、それが札所の落書として残っているそうです。その後、「八十八ヶ所」という言葉も見られるようになり、さらに澄禅により『四国辺路日記』という旅日記が書かれました。この時点では数多くの札所がありましたが、札所の順番は決まっていなかったと説明されました。



第2回目は、江戸時代前期から明治時代中期のお話をいただきました。江戸時代前期に真念により『四国辺路道指南』というガイドブックのようなものが刊行され、八十八ヶ所の札所と札所番号が明確化しました。また真念が資料を集め、寂本によって『四国偏礼霊場記』が作られたそうです。その後、「四国偏礼絵図」も刊行されました。これらにより、お遍路さんは安心して四国を巡ることができるようになったようです。1854年の南海地震により、お遍路さんが順拝するのが難しく、土佐や宇和島を回ることができなくなる時期がありました。明治時代初期の神仏分離や廃仏毀釈では、神社から別当寺などへ霊場を移したり、廃寺になった札所もありました。そのような時代を経て、現在の四国八十八ヶ所霊場となりました。



弘法大師が815年にご開創されたと伝えられております四国八十八ヶ所霊場は、来年ご開創1200年を迎えます。大きな節目を迎え、四国遍路への関心は、今後ますます高まるのではないのでしょうか。